

# 経済マンスリー

## [原油]

### 急落した原油価格とその背景

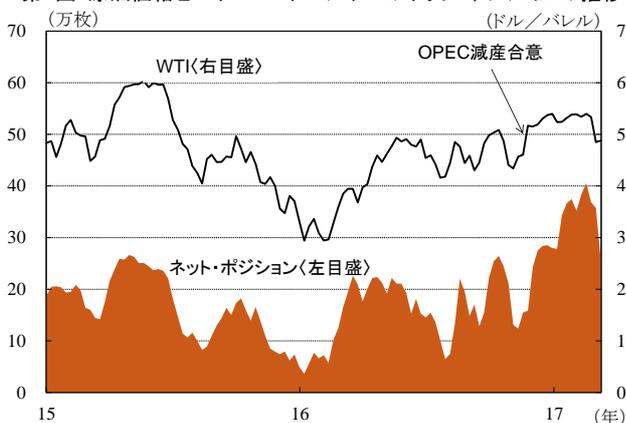
原油価格（WTI 期近物）は、昨年 11 月末の OPEC 減産合意以降、1 バレル＝50 ドル台へと水準を切り上げ、1 月に入っても OPEC 減産による供給過剰解消への期待と米シェールオイル生産拡大観測が拮抗する中、同 52～54 ドルの狭いレンジで推移した。しかし今月 8 日、米国原油在庫の大幅増加を受けて WTI は前日比▲2.86 ドルと急落し、同 50.28 ドルと 3 ヶ月ぶりの安値となった。翌 9 日には節目となる 50 ドルを割り込み、足元では同 47～48 ドル台と 3 ヶ月半ぶりの安値水準で推移している（第 1 図）。

1 月から減産している OPEC の減産遵守率は、加盟国間で大きな差があるものの、全体では 1・2 月平均 98% となっており、順調に進捗している。しかし、足元の原油市場で価格急落をもたらすほどの供給過剰懸念が再燃しているのは、米国で昨年半ばから石油リグ稼働数の増加が続いているのを背景に、シェールオイル生産量も今年 1 月から拡大に転じているためである（第 2 図）。原油生産拡大に、原油輸入の増加と製油所処理量の低下が重なり、2 月の米国原油在庫は過去最高水準に達している。米シェールオイル生産拡大により OPEC 減産の効果が薄れ、世界的な供給過剰は解消されないのではないかと懸念が広がったことが、原油価格の下押し圧力となっている格好だ。

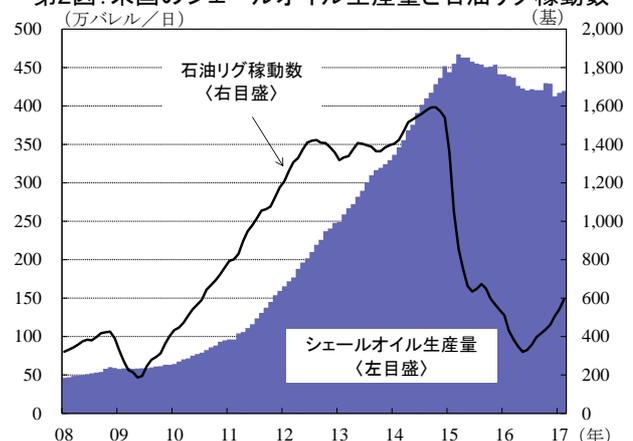
さらに金融要因も挙げられる。原油先物市場の投機筋のネット買い越しポジションは昨年 12 月以降急拡大し、2 月 21 日時点で過去最高水準に積み上がっていたが、その後は買いポジションの調整が入ったとみられており、今月 14 日時点の買い越し額は前週比で過去最大の減少幅となっている（第 1 図）。

当面は、供給過剰解消への期待と懸念が拮抗し、原油価格は狭いレンジでの値動きになると見込まれるが、6 月に近づくにつれ OPEC が同月までの減産合意を延長するか否かを巡る関係者の発言に注目が集まることとなろう。

第1図：原油価格とマネー・マネージャーのネット・ポジションの推移



第2図：米国のシェールオイル生産量と石油リグ稼働数



照会先：三菱東京 UFJ 銀行 経済調査室 篠原 令子 reiko\_shinohara@mufg.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の販売や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しく願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当室はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。また、当資料全文は、弊行ホームページでもご覧いただけます。